

一般社団法人日本物流団体連合会会報

Grow

No. 106

2023
December



C O N T E N T S

第23回物流連懇談会を開催 1 全日本空輸株式会社 取締役 専務執行役員 外山 俊明氏を迎えて 国際航空貨物の市場動向とANAの戦略について	1
基本政策委員会..... 6 今後の物流政策についての講演会を開催	6
物流環境対策委員会..... 7 株式会社商船三井による「LNG燃料フェリーの 建造と商船三井グループの環境取り組み」講演開催	7
人材育成・広報委員会 8 物流の魅力や社会的重要性について理解を深めてもらう活動に注力	8
今年度の物流業界インターンシップ終了後に実施した..... 9 参加学生・企業アンケートの結果	9
令和5年度 モーダルシフト取り組み優良事業者を公表・表彰 12 大賞は佐川急便株式会社と全国通運株式会社のW受賞	12
令和5年度 第2回「物流分野における低炭素・脱炭素化 16 推進に向けた情報交換会」開催	16
第25回物流環境大賞募集を開始しました 17	17
国際業務委員会..... 18 「頻発する地政学リスクの実態と危機管理の課題」について講演 「ベトナム進出における雇用の課題と魅力」に関する講演会を開催	18
経営効率化委員会..... 20 委員会の上期活動報告および下期方針について議論	20
第2回 高齢者活躍推進ワーキングチームを開催 21 高齢者雇用の現状と課題について調査結果を報告	21
会員企業をたずねる～女性の力、女性の声 22 日本パレットレンタル株式会社 五反田 舞さん	22
令和5年度後期大学寄附講座 法政大学、横浜国立大学で開講 24	24
2023年度版「数字でみる物流」のご案内／ 25 最近の活動状況／編集後記	25



第23回 物流連懇談会を開催

令和5年度 第2回「物流分野における低炭素・
脱炭素化推進に向けた情報交換会」開催令和5年度 モーダルシフト取り組み優良事業者
を公表・表彰

全日本空輸株式会社 取締役 専務執行役員

外山 俊明氏を迎えて

国際航空貨物の市場動向と ANAの戦略について

10月19日（木）、東京港区の第一ホテル東京において、第23回物流連懇談会を開催しました。

物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行っています。今回は、全日本空輸株式会社取締役専務執行役員の外山俊明氏が、「国際航空貨物の市場動向とANAの戦略について」と題する講演を行いました。



1 昨今の国際航空貨物市場動向 (コロナ禍)

1-1 市場概況

航空貨物需要は、経済状況の影響を受けやすい需要特性がありますので、ボラティリティが大きいのが特徴です。

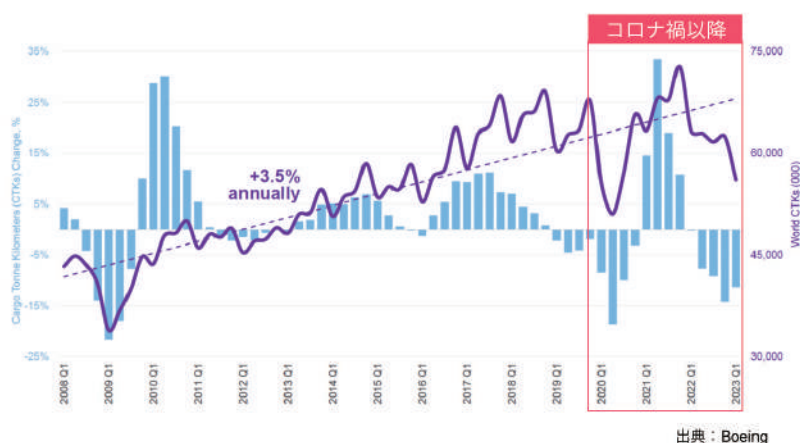
2009年にはリーマンショックがあり、そこからV字回復しました。2019年の落ち込みは米中の貿易摩擦に

よるものです。2020年、コロナ禍に入って全世界の生産が一斉にストップしました。2021年、いろいろな要因が絡み、航空貨物市場はかつてないほど物量が増加しました。マスク、ワクチン等の医療物資の増加やいわゆる巣ごもり需要の増加、海運の混雑に起因する需要が背景にあります。

最近では、各国のインフレ対策、米中の対立、ウクライナ危機等の要因で、貨物バブルは弾けた状態になっており、コロナ禍前を下回る状況になっています。

1-1. 市況概況

コロナ禍は物流業界に追い風、足元はコロナ前を下回る水準に



1-2 コロナ禍でのANA の取り組み

コロナ発生後、旅客便は大幅に減少しましたが、増加した貨物のため、ANAでは保有する貨物機をフル活用したほか、旅客機を使った貨物便（NO PAX便）で補いました。客室にも貨物を積んだことがありましたし、その際には旅客係員も搭載業務に当たりました。

一方、コロナ禍により、あらゆる物流会社とその従業員に社会の目が集まったのではないかと、サプライチェーンを守る重要な社会インフラとしての認識が高まったのではないかと考えています。

2 航空貨物の機会と課題

2-1 機会

[2-1-1 モノの流れが増える]

航空貨物は基本的にGDPの成長とあわせて増えるので、この先も世界経済が成長し続けるのであれば、モノの動きも増え、2040年まで年3%の持続的な成長が見込まれています。

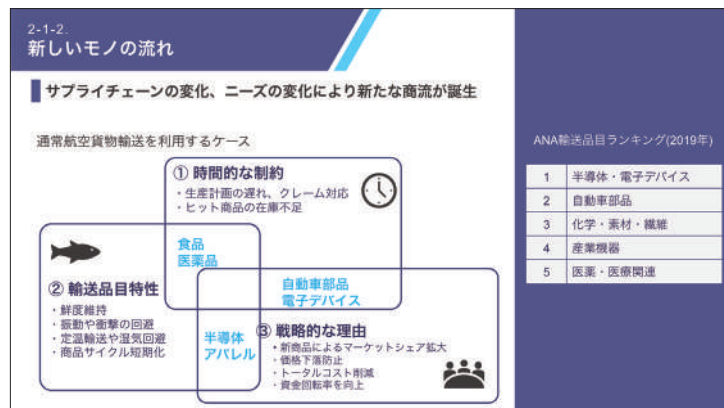
しかしながら、経済成長には波があるとともに、航空貨物は景気のみならず、世の中の出来事、流行といった要素にも敏感に反応する特徴があります。地域間の貿易量に比して需要の規模も異なります。

[2-1-2 新しいモノの流れ]

航空貨物輸送を利用する理由に、①時間的制約、②生鮮食料品や温度管理が厳格な医薬品、振動や結露に弱い半導体製造装置といった輸送品目の特性、③企業の戦略的理由が挙げられます。

また、今後、期待される商材としては、医薬品、生鮮品、半導体があります。特に半導体はこれまでも成長ドライバーでありました。世の中が便利になればなるほど必要となる半導体の商流からは、まだまだ目を離すことができないと思っています。

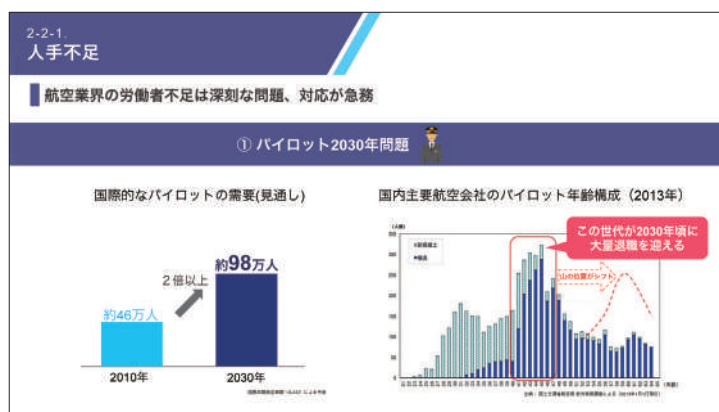
ECの需要は、数年前から航空貨物のメイン商材になっており、この先もさらに増加していくと考えています。



モノの流れが変わる代表例としてECを挙げているのは、商品の流通経路、消費経路、物流経路が変わるからです。これまで工場から出荷されてから消費者に届くまで、いくつものプロセスで構成された流れが、各メーカーからプラットフォーマーの倉庫に届けられ、そこから直接消費者に届けられる、より単純な流れに代わってきます。一方で、ECの巨大プラットフォーマーは、物流も全て自分たちで行おうとしています。まさにECは物流も含めたゲームチェンジャーだと思っています。

2-2 課題

[2-2-1 人手不足]



市場の拡大が期待される航空貨物にも多くの課題があり、その1つが人手不足です。

まずパイロットですが、2010年のパイロット数は世界で46万人だったのが、2030年には98万人必要とされています。さらに、現在国内のパイロットの4割を占めている50歳代が一斉に退職時期を迎える、日本におけるパイロット2030年問題があります。これについては、養成課程の効率化、自衛隊パイロットの民間活用、大学でのパイロット養成課程の新設等、官民を挙げた取り組みを行っているところですし、ANAではコロナ禍においてもパイロットだけは採用を継続しました。

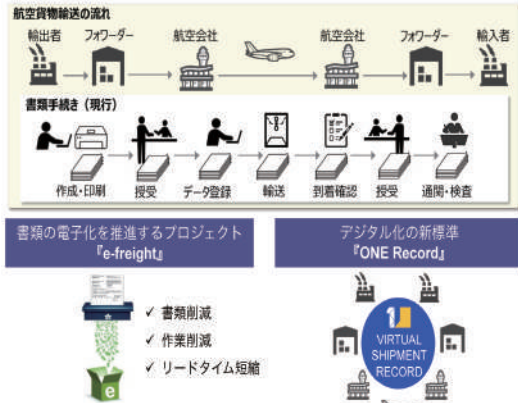
空港スタッフも同様です。生産年齢人口の減少により人手不足はコロナ禍前から顕在化していましたが、コロナによる航空需要の急速な減退で離職者が続出し、働き手がさらに減少しました。

9月にこうした業界の共通課題の解決に取り組む団体として、国内の航空会社と空港関係の会社50社が、空港グランドハンドリング協会を設立しました。生産性向上に向けた業務改革や省人化技術の導入促進等を目指しています。

[2-2-2 情報連携]

2-2-2. 情報連携

サプライチェーン全体でプレイヤーが多く情報連携に不足あり、シームレスな情報連携が今後の鍵に



航空貨物輸送では、出荷する荷主様から受け取る荷主様の間に、多くの事業者と政府機関が介在しますが、残念ながらそれらの情報連携が大きく不足しているのが実態です。情報伝達や手続きの多くは未だに紙で行われており、多くの時間と人手のかかるバケツリレーのようなプロセスが存在しています。その結果、航空のメリットであるスピードを棄損しているだけでなく、物流事業者の生産性向上の面でも大きな課題が生

じています。

その解決策として、IATA（国際航空輸送協会）が2点の施策を提唱しています。1点目が、既存のデータ方式やシステムを最大活用しながら、ペーパーレス化を図る「e-freight」、いわゆる運送状の電子化等です。2点目が、データ連携の新たな仕組み「ONE Record」で、2026年1月導入を予定しています。「ONE Record」はデータをブロックチェーンで共有し、End to Endで情報連携が可能となります。既に各国で導入に向けた実証実験が行われており、日本でも今年度中に実験を進めたいと思っています。

尚、これら2点は、本年5月末に実施された斉藤国土交通大臣と物流連との意見交換会において、物流連の副会長を務めている弊社の伊東から、申し入れをさせていただいています。

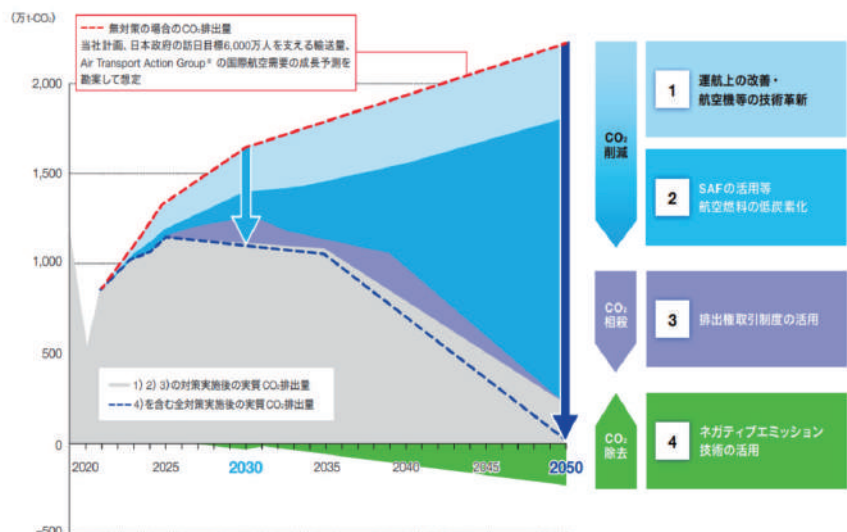
[2-2-3 環境対策]

航空業界では、ICAO（国際民間航空機関）が、国際航空分野で2050年までにCO₂の排出を実質ゼロにする長期目標を採択しました。ANAでも同様の環境目標を設定し、脱炭素社会の実現に向けトランジション戦略を策定しています。「運航上の改善・航空機等の技術革新」、「SAFの活用等（航空燃料の低炭素化）」、「排出権取引制度の活用」、「ネガティブエミッション技術の活用」以上4つの施策を組み合わせ、グループの持続的成長と環境対策の両立を追求していきます。

2-2-3. 環境対策

貨物も”飛び恥”時代突入
100%脱炭素のサプライチェーン構築をめざす

2050年
カーボンニュートラルへ向けた
トランジション・シナリオ



中でも、「燃料のSAF化」は対策の柱になります。現在、世界のSAF生産量は、需要の0.03%に留まっており、量産と普及が急務な状況です。官民・国境をまたいで関係者が協力し、その生産の拡大を推進することが必要と考えています。

なお、ANAでは、「SAFイニシアチブ」というプログラムを行っており、カーゴプログラムでは、使用量に合わせて当社が証書を発行するような仕組みを荷主様やフォワーダー様へ提供しています。

2 ANA 貨物戦略

3-1 コンセプト

3-1. コンセプト

『Smart Cargoモデル』の実現

	顧客	従業員/パートナー	社会
simple	コンビネーションキャリア	ペーパーレス	安全の堅持
flexible	多様な輸送商品ラインナップ	様々な働き方	社会ニーズへの迅速な対応
most advanced	シームレスな情報提供	業務プロセス改革	SDGsへの取組み

ANAグループは、今年4月、3カ年(2023年～2025年)の経営戦略を策定しました。コロナ禍を契機にこれまで変えることができなかったことも含め事業構造改革を行い、そしてさらに進めていこうとしています。

貨物事業においても、変わりやすい市況の中でも、安定した成長ができるように、「Smart Cargoモデル」を戦略のコンセプトとしています。

我々にとっていつの時代でも重要なお客様、従業員、パートナー、さらに企業を取り巻く社会等のステークホルダーに対して、よりSimpleに、よりFlexibleに、そしてMost Advanced = 最先端な方法で、それぞれに対応し、課題解決を図っていくというものです。これらを着実に実践していくことにより、各ステークホルダーの支持を得て、収益を上げることができ、持続的な成長が実現すると考えています。

3-2 ネットワーク

航空会社にとっても最も大事なものは、航空輸送ネットワーク、そして、それを構成する航空機です。

ANAは本邦で唯一、貨物機、旅客機の両方を保有するコンビネーションキャリアとして貨物ネットワークを提供しています。現在、グループ全体で旅客機材を225機、貨物機材は中型のB767型フレイター9機、大型のB777型フレイターを2機、合計11機保有しています。特にB777Fと呼ばれる大型貨物機は、100トンの貨物を搭載でき、かつ長距離運航が可能な非常に経済的な機材です。この2つの機材を市場の規模と商材等の特性に合わせて投入しています。

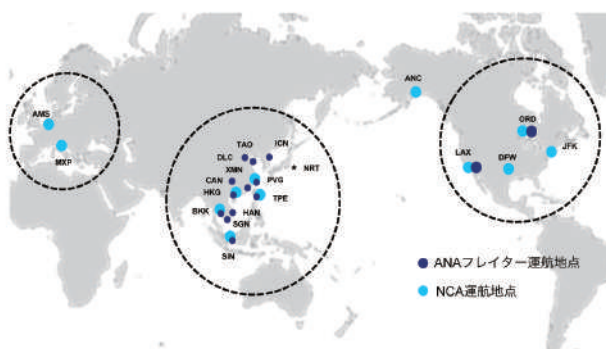
今年3月、ANAは、日本貨物航空(NCA)を日本郵船様から買収すると発表しました。NCAは、1978年にANAと海運5社の合併事業として設立され、B747型大型貨物専用機で、世界の主要市場にネットワークを展開してきました。2005年に合併契約を解消し、保有していた株式を日本郵船様に譲渡しましたが、今般、私どもに再び経営権を譲渡していただくこととなりました。

ANAのネットワークに、NCAが保有する大型機ネットワークが加わることで、成長が見込まれる地域間流動に合致した、とてもバランスが取れたネットワークが完成すると期待しています。また、今以上にあらゆる商材に対応できますので、お客様に、より便利なサービスを提供することができると考えています。

また、NCAの買収と並行して、2028年に新たな貨物専用機B777-8Fの導入を決めています。搭載可能重量120トンと既存のB777Fより多く、燃費が格段に改善でき、環境対策の切り札でもあります。

3-2-1. 日本貨物航空(NCA)のグループ化

大型貨物便から旅客便まで、様々な「路線 x 機材」の組み合わせで多様化するニーズに応える



NCA運航地点: 日本貨物航空ホームページ 夏季基本運航スケジュールより作成

週間便数	ANA貨物便	NCA
北米	8	13
欧州	0	5
アジア	40	6
中国 ※香港含	49	19

3-3-1. 成田空港新上屋

上屋施設集約と最新自動化技術導入により、顧客の利便性を高める

施設集約



6カ所に分散している施設を集約、入退場ゲートの新設

貨物導線、トラック導線の効率化によりリードタイムを短縮

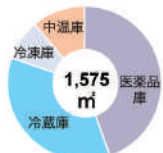
自動化



自動搬送車(AGV)、自動ラックの導入

スピーディな荷受け・荷渡し

温度管理施設



用途に応じた4タイプを新設、前室やトラックポートを装備
より厳格な温度管理が可能に

環境



ZEB Oriented認証取得・太陽光発電システムの導入

CO2の削減

3-3 サービス品質向上とプロセス効率化

[3-3-1 成田空港新上屋]

サービス品質の向上ならびにプロセスの効率化実現に向けた施策をいくつかご紹介します。

まず、来年10月に運用開始を予定している成田空港における貨物ターミナルです。

ANAは全ての貨物専用機を成田空港に配置しており、NCAも成田空港が主基地になります。その成田空港での利便性をさらに向上させるため、NAA（成田国際空港）様にて建設が進められている成田空港第8貨物ビルを活用する予定です。現在は、空港内の6カ所に施設が点在しており、荷役効率や顧客の利便性の点で大きな課題がありましたので、これら施設の統合は、まさに悲願でありました。

新しい施設の特徴は4つあります。

1つ目は施設集約です。輸出・輸入・経由貨物などを同じ施設にまとめ、取扱いの効率化を図ります。また、第8貨物ビルの至近に貨物ゲートを新設し、NAA様のトラック呼び出しシステムと連携させ、作業効率化につなげます。

2つ目は自動化です。最新の自動搬送車（AGV）や自動ラックの導入により、スピーディな荷受け・荷渡しと効率化・省人化を両立していきます

3つ目は温度管理施設です。用途に応じ4タイプ、延べ1,575㎡の最新設備を導入して、品質向上を図ります。外気に触れずに搬出入や荷捌きが行えるトラックポートや前室を装備しますので、厳格な温度管理が可能となります。

4つ目は環境です。環境省のZEB Oriented 認証の最新の環境対策も施しています。また、太陽光発電を備え、CO₂削減を図ります。

[3-3-2 BPR×新システム]

サービス品質の向上と同時に、各業務プロセスの効率化にも重点を置いています。経営戦略である『Smart Operationの実現』です。

業務プロセス改革と今年稼働した新基幹システムの活用により、予約から貨物の引渡しまでの一連のサービスのスマート化を目指したいと考えています。

前段でも触れましたが、情報連携のスピードや精度の向上が、Smart

Operationの実現に向けた大きなカギとなっています。これらを早期に実現することにより、お客様にタイムリーでシームレスな情報連携が提供可能となり、サービス品質の向上につながっていきます。その一方で、業務プロセスの効率化・生産性の向上を図り、その延長上で社員の働き方も変えていけると考えています。

[3-3-3 IATA CEIV Pharma/Fresh 認証取得]

ANAは商材ごとに専門チームを複数設けています。

また、数年前から、IATAが特殊貨物輸送に関わるハンドリング品質認証プログラム、CEIVを展開しています。ANAも、医薬品、生鮮品輸送に関わる認証を、日本の航空会社として初めて受け、輸送商品「PRIOシリーズ」を展開しています。医薬品の「PRIO PHARMA」、半導体製造装置の「PRIO SENSITIVE」、完成車の「PRIO VEHICLE」、そして、この8月から動物輸送の「PRIO LIVE ANIMALS」をリリースしました。

3-4 ありたい姿

コロナ禍は、運送業が社会的になくてはならないインフラであることを認識していただく良い機会になりました。この期待に応えながら、ダイナミックに進化していく世界経済の中で、しっかりと商売の機会をつかんでいくために、私たちANAはノウハウを磨き、新しい技術を積極的に取り入れ、フォワーダー様、物流事業者様と今以上に深く連携して、エンドユーザー様や荷主様に、より良いサービスを提供していきたいと思えます。

そしてその行動が、従業員の成長を促し、社会への貢献も果たし、持続的な成長につながると信じています。

今後の物流政策についての講演会を開催

第33回基本政策委員会を開催

9月25日(月)、全日通震が関ビル(東京都千代田区霞が関)において第33回基本政策委員会(委員長:長谷川伸一物流連理事長)を開催しました。

委員会に先立ち、国土交通省総合政策局物流政策課長平澤崇裕氏による「最近の物流政策の概要」と題した講演会が、対面・オンライン視聴と併用で行われ、会員団体・企業から77名の参加がありました。

物流政策の進捗について説明

講演では、最初に我が国を取り巻く物流の現状について話された後、総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)に沿った最近の物流政策について①物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化により「簡素で滑らかな物流」の実現、②労働力不足対策と物流構造改革を推進して「担い手にやさしい物流」の実現、③強靱で持続可能な物流ネットワークの構築により「強くてしなやかな物流」の実現に向けた各種施策とその進捗状況について説



講演する平澤崇裕物流政策課長

明がありました。具体的事例としては、ドローン物流の社会実装に向けた取り組み、官民物流標準化懇談会における物流標準化の各種アクションプラン、高度物流人財の育成、トラックドライバー時間外労働の上限規制を遵守するために必要な労働環境の整備と荷主対策の深度化および監視体制の強化、2024年問題に向けた広報活動等さまざまな事例が報告されました。また、令和5年3月に設置された「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」において、商慣行の見直し、物流効率化、荷主・消費者の行動変容についての抜本的・総合的な対策をまとめた「物流革新に向けた政策パッケージ」についての紹介もありました。講演に続いた質疑応答では、参加者から物流政策に対する期待と要望が寄せられました。

国土交通省の予算概要説明と上期事業活動について報告

委員会では、長谷川委員長の挨拶の後、平澤物流政策課長から「令和6年度予算・自動車関係予算概要要求概要」について説明があり、意見交換が行われました。その後、山田事務局長から、物流連の令和5年度上期事業活動についての具体的内容の報告と、物流連の今後の主な活動についての説明がなされ閉会となりました。



講演会の様子



基本政策委員会会議風景

株式会社商船三井による「LNG燃料フェリーの建造と商船三井グループの環境取り組み」講演開催

令和5年度第1回物流環境対策委員会を開催

9月26日(火)、全日通霞が関ビル(千代田区霞が関)において、令和5年度第1回物流環境対策委員会(委員長:篠部武嗣氏 日本貨物鉄道株式会社 取締役兼常務執行役員 経営統括本部長)を開催しました。

「物流環境対策委員会」は、物流の低炭素・脱炭素化や効率的な輸送システムの構築など、物流分野の環境対策の促進を目的として、諸課題の検討や情報提供を行っています。また、優良事業者・優良事例の表彰等を通じ、環境対策の普及促進に取り組んでおり、年2回開催しています。

令和5年度第1回委員会では、まず第一部として講演会を実施し、第二部で上期活動報告と下期活動内容を審議しました。

物流環境大賞を受賞した「さんふらわあ ぐれない」について講演

第一部の講演に先立ち、当連合会の主催する「第24回物流環境大賞」で大賞を受賞された案件に関する講演会が行われました。最初に株式会社フェリーさんふらわあ取締役の堀内啓介氏から挨拶があり、引き続き親会社の株式会社商船三井ウェルビーイングライフ営業本部 フェリー・関連事業部スペシャリストの中村正史氏から「さんふらわあ ぐれない」の開発の経緯、意義、今後の取り組みなどをお話いただきました。最新鋭のフェリーを就航し

たことは若い人への訴求力アップにつながり、船員の獲得への足掛かりになったという望外の成果があった一方で、内航海運はコスト回収が難しい市場環境であり、コスト転嫁に苦慮していることなど、デメリットも交えて分かりやすく説明くださいました。また、外交海運として直面している、カーボンプライシングやEU-ETS(欧州排出権取引制度)にも話が及び、「環境」が重要政策となっている欧州の情勢にも触れる良い機会となりました。

情報交換会や各所表彰制度の充実について議論

第二部として開催された委員会では、年に2～3回開催している「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」において、荷主企業を招いて意見交換、物流施設の見学会といった新たな試みを行っている旨を説明しました。委員会で取り扱っている「物流環境大賞」「モーダルシフト優良事業者表彰」「グリーン物流パートナーシップ会議」の各種表彰制度を今後も鋭意継続するとともに、情報交換会のさらなる内容の充実を提言し、令和5年度の下期動計画(案)は原案通り承認されました。

次回の委員会は来年3月頃の開催を予定しており、当連合会では以上の活動を通じて物流業界全体での環境負荷低減の取り組みを推進してまいります。



講演を行う中村氏



議事進行の篠部委員長



会場全景とオンラインで挨拶する堀内氏

物流の魅力や社会的重要性について 理解を深めてもらう活動に注力

令和5年度 第1回人材育成・広報委員会を開催

10月11日(水)、全日通霞が関ビル(千代田区霞が関)において、令和5年度第1回人材育成・広報委員会(委員長:近藤晃氏 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)副社長執行役員 兼 日本通運(株)代表取締役副社長 副社長執行役員)を開催し、会員企業・団体から23名がオンライン併用で参加しました(会場参加13名、オンライン参加10名)。

冒頭、近藤委員長から、「我々物流業界において差し迫った課題として、2024年問題に代表される人材不足という問題があるが、この人手不足は何も我々物流業界に限った問題ではなく、日本のあらゆる企業による人材獲得競争が今激化している。そうした環境の中で我々物流業界の各企業が多くの人材を集め、育て、そして持続的に成長していくためには、一社一社の努力にとどまらず、業界全体を挙げて

の取り組みが必要である。我々、人材育成・広報委員会の使命はまさにそこにあり、物流業界インターンシップや物流業界研究セミナーなどの活動を通して、優秀な人材の採用と育成に業界全体で協力して



挨拶をされる近藤委員長



委員会全体風景

取り組んでいくことを今後も継続していきたい」との挨拶がありました。

「物流業界インターンシップ」について報告

議事では、上期の活動報告として、本年8月17日から約1カ月に及び開催された「物流業界インターンシップ」について報告が行われ、会員企業30社1団体と物流連が協力して行った、「合同説明会」および「企業訪問」、まとめとしての「インターンシップ総括」の3部構成のプログラム内容について説明しました。

総勢335名の学生が参加し、その後に行ったアンケート結果から、「物流業に対する理解が深まり、かつ業界への就職志望も強まった」との回答も多くあり、本事業を会員企業・団体と共同して継続実施していく重要性が再度確認されました。

物流業の社会的重要性や先進性を伝える取り組み内容を報告

上期の活動報告では、青山学院大学の「寄附講座」や京都外国語大学、東京女子大学、拓殖大学での「大学学内セミナー」、中高生を対象とした「物流学習・職場体験」、会員の若手で構成する「物流いいとこみつけ隊」の活動状況、物流見学施設を斡旋して紹介している「物流見学ネットワーク」の再開等について説明しました。

最後に下期に取り組む事業として、12月～2月にかけて開催する「物流業界研究セミナー」、法政大学、横浜国立大学で実施する「大学寄附講座」、9月29日より再開した「物流見学ネットワーク」等により、多くの若い世代に対して物流業の社会的重要性や先進性を伝えていくことを説明し、令和5年度の下期活動計画は審議の結果承認され、委員会は終了しました。

今年度の物流業界インターンシップ 終了後に実施した 参加学生・企業アンケートの結果



1 はじめに

今年度は会員企業30社・1団体と共同で、8月17日から9月8日にかけて物流業界インターンシップを開催しました。初日の合同説明会を8月17日にWebにて、21日に大阪会場（ハービスHALL）にて、8月28日に東京会場（産業貿易センター浜松町館）にて開催し、335名の学生が参加しました。

その後の企業訪問は大阪方面で8月30日から始まり、計3日間（8月30日～9月1日）で59名の学生が参加。東京方面では9月5日から始まり、計3日間（9月5日～7日）で146名の学生が参加しました。訪問先の希望は、学生にそれぞれ合同説明会終了後に提出してもらい、物流連にて訪問企業先を振り分け、各企業のインターンシップに参加してもらいました。

また、企業訪問終了後に、インターンシップの総括として、オンラインによる振り返りのためのグループワークを実施し19名の学生が参加しました。

このインターンシップ終了後に、物流連では学生や参加企業の担当者を対象にアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて次年度の開催へ向けての概要を決めております。

以下は、その一部アンケート結果となります。

2 参加学生アンケート

期 間：令和5年9月8日（金）～9月15日（金）

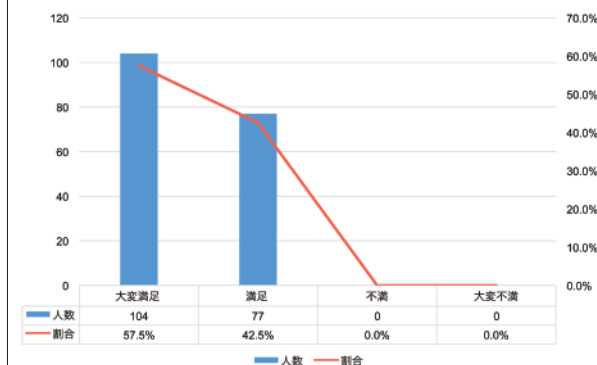
対 象：参加学生

回収数：181名（男：73名 女性：108名）

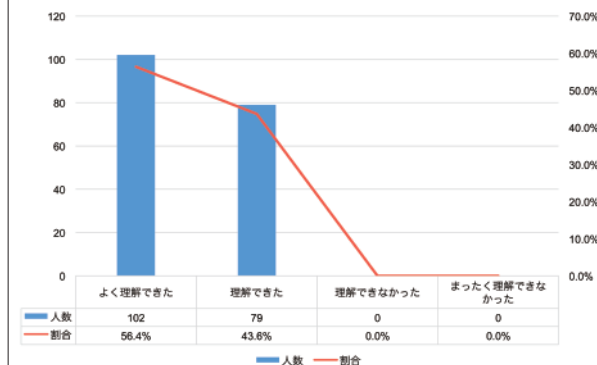
回答者の感想の一部抜粋

- ・物流業界の仕事内容や各企業の若手社員による「物流の魅力」についてのお話が聞けて、物流業界への理解と興味を持つきっかけになった。

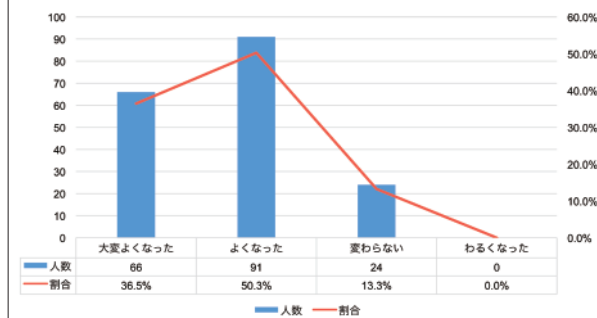
全体の満足度について



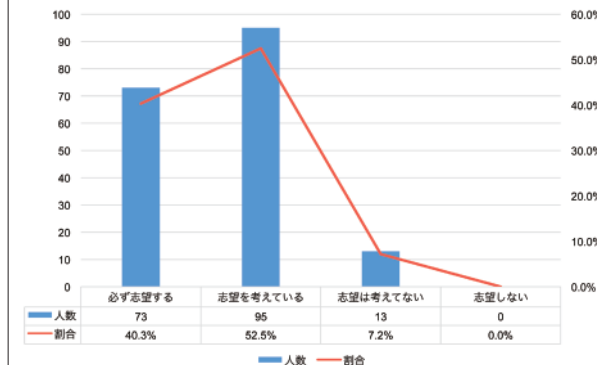
物流業界の理解度について



参加後の物流業界の印象について



物流業界の志望度について



今年度の物流業界インターンシップ 終了後に実施した 参加学生・企業アンケートの結果



会場内風景（各社ブース）



会場内風景（パンフレットコーナー）

- ・ 物流業界の安定性や、社会貢献度の高さについてあらためて知ることができて良かった。
- ・ 各企業の説明を聞く前に、講演会で物流業界の現状と展望について整理できたことで、各ブースでの理解度が増した。
- ・ 実際に働いている方々のお話を聞き、それを元に質問する機会も設けていただけたため、各物流企業の雰囲気を肌で感じる事ができた。
- ・ 施設や現場の見学や実際に体験することで、働くイメージが湧き、理解が深まった。
- ・ 参加していた学生と意見や学んだことの共有ができ、インターンシップの効果を高めることができた。

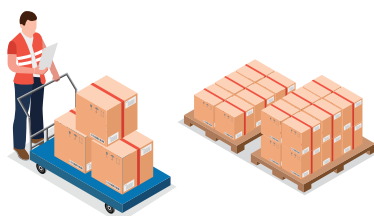
3 | 参加企業アンケート

期 間：令和5年9月8日（金）～9月20日（水）

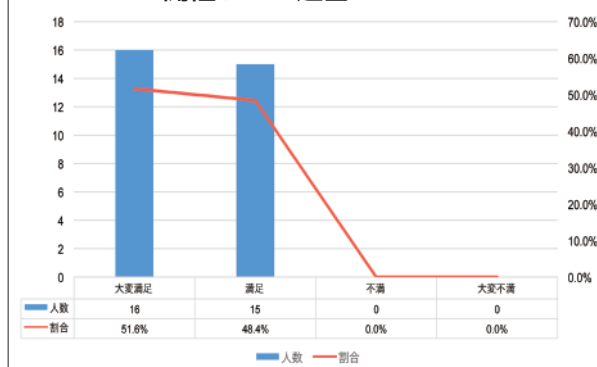
対 象：参加企業担当者、

物流いいとこみつけ隊メンバー

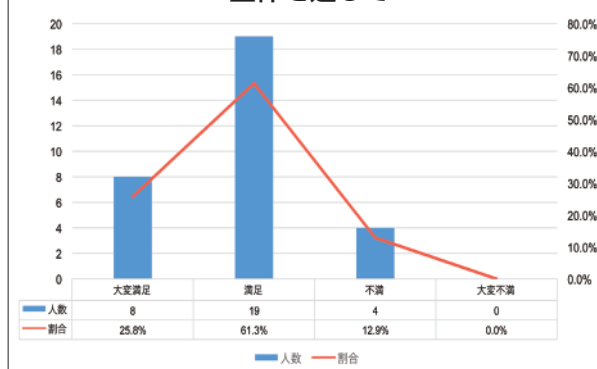
回 答：30社1団体 31名



開催までの運営について



全体を通して



回答者の感想の一部抜粋

- ・ 申込～実施まできめ細やかなご連絡や柔軟なご対応をいただけたため。
- ・ 物流業界を志望している意識の高い学生と接点を持つことができた。



- ・ 学生に興味を持って話を聞いてもらえている手ごたえを得られたから。
- ・ 来場者が思っていたよりも少なかったが、一般の学生と比べて物流に高い関心を持っている学生に自社を知ってもらえる機会となりとてもよかった。
- ・ 参加した学生様の中には熱心に質問やワークに取り組んでいたため、よい機会と感じた。
- ・ 物流に興味を持ってくれる学生もどんどん減ってきているため、少しでも接点を持てる場を設けていただき大変ありがたい。
- ・ 全体の参加人数が少ないと感じた。

4 | 今後の課題

全体を通じての課題

- ・ 集客が一番の課題となっています。年々学生の動きが早まっていることから、開催時期の見直しや会場開催ではなく、参加数の一番多いWeb開催への切り替え、実施日数を増やすなど、検討する必要があります。
- ・ 文部科学省・厚生労働省・経済産業省の3省合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」の改正によって、インターンシップを実施する場合、短期5日間以上の就業体験が必要となるため、現状の運営のままでは来年イン

ターンシップとして活動することは難しい。年々参加数が減少している観点からもインターンシップではなく、毎年冬に開催している「業界研究セミナー（合同説明会のみ）」を夏時期にも開催するなど、大きく実施内容を変更することも検討しなければならないと考えています。

次年度へ向けて

- ・ 学生の動きが年々早まっており、学生の6月～8月までに参加したキャリア形成活動の内容は単日の業界や企業による説明会が圧倒的に多いため、次年度は、「インターンシップ」ではなく、「物流業界研究Webセミナー」として6月～7月にかけて3回実施する方向性で検討を進めている。
- ・ 会員企業の若手社員で構成される「物流いいとこみつ隊」のメンバーを中心に、開催に向けて全体の運営について検討し、進めていきます。

5 | 終わりに

今後は、「物流業界インターンシップ」の継続事業である、第4回物流業界研究Webセミナー【令和5年12月9日（土）、令和6年1月12日（金）】、第6回物流業界研究セミナー大阪【令和6年1月27日（土）】、第10回物流業界研究セミナー東京【2月10日（土）】の開催に向けて準備を進めていきます。



パネルディスカッション



タウンホールミーティング

令和
5
年度

モーダルシフト取り組み 優良事業者を公表・表彰

大賞は佐川急便株式会社と全国通運株式会社のW受賞

11月10日に「令和5年度モーダルシフト取り組み優良事業者」を公表、11月21日に表彰式を開催しました。最優秀である大賞は佐川急便株式会社と全国通運株式会社が受賞し、大賞2社を含む計8社がモーダルシフトを積極的に推進した優良事業者として選定されました。2社が大賞に選定されるのは7年ぶりのことです。大賞を受賞した取り組み内容の詳細は次号にて紹介します。



表彰式の様子



講評する竹内委員長
(東京女子大学教授)

1 モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)

受賞者：佐川急便株式会社

功績事項：飛脚 JR 貨物コンテナ便

宅配便では取り扱いが困難な大きい荷物や、一度に大量の荷物を送りたい場合に、鉄道輸送に切り替え、お客様に安定的に提供できる輸送サービスを構築しました。ビルや狭路など鉄道コンテナが進入できない場所においても、通常のトラック輸送を活用し、貨物駅近隣の佐川急便営業所や貨物駅構内の積替ステーションでコンテナに積み替えることが可能です。このサービスは12フィートコンテナを扱う全国の鉄道貨物125駅(積替ステーションはそのうち16駅)を利用することができます。

全国約26,000人のセールスドライバーが、トラックだけでなく鉄道への貸切営業も行うことにより、受注数はサービスを開始して1年間で数千件にのびました。鉄道を使用したことがない中小企業を含めて、様々な客層に販路を広げています。12フィートコンテナに荷物が積みきれない場合でも、飛脚宅配便とのコンビネーションにより柔軟な輸送を可能となっています。



モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞した
佐川急便(株)栗和田取締役(右)

トラック幹線輸送を鉄道に切り替えることで、各輸送におけるCO₂排出量を80%以上削減することができ、環境負荷低減と、安定的で持続可能な輸送の範となる取組みとなっています。

受 賞 者：全国通運株式会社

功績事項：卸売業者、小売業者と連携した鉄道貨物輸送への転換

卸売業者と複数の小売業者と連携して小口配送していた商品を集約し、トラック輸送から鉄道輸送に転換しました。物流を集約することで、個々の小売り業者では利用の難しかった鉄道輸送が可能となり、元来鉄道輸送を行っていなかった商品も輸送できるようになりました。

小売業者各社がそれぞれ調達し、注文があるたびに個別少量配送していた輸送を、複数の小売業者で協議会を作り、お互いに物流・商流をデータ化、配送を「見える化」して集約配送ができるように調整を行いました。

卸売業者である(株)シジシージャパンが主体となって全国の産地から12フィートコンテナに商品を積載し全国の加盟企業へ発送、またスーパーの店頭でもPOPにて鉄道輸送で商品を調達していることを消費者にアピールしており、環境負荷低減だけでなく、農林水産物・食品等におけるより強靱



モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞した
全国通運(株)長岡取締役(右)

な物流ネットワーク構築の範となる取組みとなっています。

2

モーダルシフト取り組み優良事業者賞

① 実行部門

受 賞 者：山九株式会社

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成。

幹線区間における貨物総輸送量のうち、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成しました。

受 賞 者：日本通運株式会社

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成。

幹線区間における貨物総輸送量のうち、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成しました。

② 改善部門

該当はありませんでした。



モーダルシフト取り組み優良事業者を 公表・表彰

③新規開拓部門

受賞者：SBS東芝ロジスティクス株式会社

功績事項：照明機器の鉄道モーダルシフトを実現

千葉県から大阪府への照明機器輸送について、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現しました。

CO₂排出量削減ならびにドライバーの負荷軽減を鑑み、東芝ライテック（株）の商品の拠点間輸送を、6割程度から波動変動分を除く9割程度まで鉄道輸送へ転換しました。本取り組みでは関東から関西に空で回送していたJR31 フィートコンテナを活用できたことで、コンテナラウンドユースも実現しています。



受賞したSBS東芝ロジスティクス（株）村井取締役（右）

受賞者：NRS 株式会社

功績事項：化学製品の中距離鉄道輸送へのモーダルシフトを実現

兵庫県から静岡県への化学製品輸送において、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現しました。

300km強の中距離輸送であるにもかかわらず、荷主から環境負荷の軽減や2024年問題の解決に対する大きな期待が寄せられ、その結果、モーダルシフトを実現。これにより、年間73%のCO₂排出量削減ならびにトラックドライバーの負担軽減を実現しました。



受賞したNRS（株）安晝（やすひる）取締役（右）

受賞者：株式会社 タイセイ

功績事項：氷菓の鉄道モーダルシフトを実現

主要取引先である赤城乳業（株）の埼玉県本庄市・深谷市の工場から距離の遠い九州地区の一部を鉄道輸送に転換し、CO₂排出量の削減やドライバーの運転時間削減を実現しました。元来トラック輸送の比率が高い九州地区の輸送を試験的にモーダルシフトし順調だったため、今年から岡山地区にも鉄道輸送を拡大しました。

今後は東北、関西地区への輸送もモーダルへのシフトを行う予定です。



受賞した（株）タイセイ 嶋（はなわ）常務取締役（右）

受 賞 者：日本通運株式会社

功績事項：小型家電・家具製品等の海上モーダルシフトを実現

専門商社の福岡県と群馬県の小型家電・家具製品等の拠点間輸送について、トラック輸送から RORO 船を利用した海上輸送へのモーダルシフトを実現しました。

同社の物流倉庫における拠点間輸送はトラックが主体でしたが、CO₂排出量の削減ならびにドライバーの負担軽減を鑑み、海上輸送に転換しました。現在、拠点間輸送の9割超が海上輸送に移行しており、今後は毎週定期的な運行を目指します。



実行部門・新規開拓部門を受賞した
日本通運(株)加藤取締役

④有効活用部門

受 賞 者：山九株式会社

功績事項：3社の海上輸送へのモーダルシフトを実現

3案件の海上輸送へのモーダルシフトを実現しました。

1. 山口県から千葉県への THK (株) の精密機械部品輸送について、トラック輸送からトレーラーを利用した海上輸送に転換しました。転換にあたり福岡県と山口県の商品を新門司港に集約し、フェリー輸送することで年間72%のCO₂排出量とドライバーの運転時間削減を実現しました。
2. 岐阜県から佐賀県へのアルミテラ製缶(株)の製缶輸送について、トラック輸送から RORO 船を利用した海上輸送に転換。臭いや汚れを付着させないために専用シャーシを作成し、柔らかい製品に触れないよう専用の緩衝材を製品全面に当て固縛・発送する工夫を行い、年間72%のCO₂削減と約9800時間のドライバー運転時間を削減しました。
3. 広島県から千葉県への化学製品の輸送について、トラック輸送から海上輸送へ転換し、CO₂排出量削減ならびにドライバー負担軽減を実現しました。ハイキューブ20ftコンテナと薄型14パレットを使用し効率よく積載して輸送することにより、トラック輸送時と比較して年間運行回数を25%削減しました。



実行部門・有効活用部門を受賞した
山九(株)小林陸運・エコビジネス部長(右)

受 賞 者：株式会社丸和通運

功績事項：紙製品の鉄道モーダルシフトを実現

茨城県から大阪府への紙輸送について、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現しました。

荷主の北越コーポレーション(株)の鉄道輸送に対するニーズ、販売需要予測を厳密にくみ取ることで、トラック輸送と比較してリードタイム+1日で鉄道輸送に転換。輸送が堅調のため、現在は当初の倍量を増送し、エアバック等の資材返送も週1回鉄道で行っています。



受賞した丸和通運(株)足立執行役員(右)

令和5年度 第2回

「物流分野における低炭素・脱炭素化
推進に向けた情報交換会」開催

屋上から鉄道貨物駅を見てみよう！

東京貨物ターミナル
屋上にて

晴天に恵まれた10月16日、令和5年度 第2回「物流分野における
低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」を開催しました。

「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」は環境負荷低減に資する取り組みを推進すべく、企業間の情報交換促進の場として年3回開催をしています。

今回は会議室を飛び出し、参画企業の日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）ご協力のもと、国内最大の鉄道貨物駅である「東京貨物ターミナル駅」と、併設するマルチテナント型物流施設「東京レールゲートWEST」を視察し、17名が参加しました。

「東京貨物ターミナル駅」は1日約70本の貨物列車が発着し、羽田空港、東京港国際コンテナターミナルにも近接して、物流結節点として最適な立地です。JR貨物の環境CSRや東京貨物ターミナル駅の概況説明を経て、バスで移動しながら駅構内見学を行いました。駅施設の屋上にも上がり、貨物駅全容だけでなく、港も飛行機も見える圧巻の景色を堪能しました。また、普段は見ることのできない物流施設「東京レールゲートWEST」の内部も特別に見せていただき、内容盛りだくさんの視察は参加した皆様にも大変好評でした。

当情報交換会は発足してから3年ほどの新しい会で、参画企業の皆様のご意見を取り入れながら実施内容を選定するなど柔軟に活動をしています。

今後も新しい企画を取り入れ、活発な情報交換ができるよう取り組んでまいります。



東京貨物ターミナル駅の概要説明を行う
提坂（さげさか）駅長（左）



第25回 

物流環境大賞 募集を開始しました

第25回物流環境大賞の募集を12月1日(木)より開始しました。詳細は物流連ホームページにも記載しています。

物流連ホームページ <http://www.butsuryu.or.jp/public/environment/>

募集要項と申請書は、ホームページからダウンロードすることができます。
複数の事業者による共同申請も可能です。皆様のご応募お待ちしております。

大賞・部門賞

下記のいずれか基準に適合した荷主・物流事業者を表彰します。

1. モーダルシフトの推進、輸送網の集約、輸配送の共同化等物流効率化を図る取組みであって、温室効果ガスの削減に資するものを実施された方
2. 環境保全に資する取組み又は環境啓発活動等を行い、サステナブルな社会の実現に貢献した方
3. 環境負荷低減に資する先進的な技術開発を行い、又は先進技術を活用して環境負荷低減に資する物流システム、輸送機器、施設等の創出を図った方
4. その他、物流分野における環境保全の推進、環境意識の高揚等を図った方

応募案件の中で、最も優れた取組みを「物流環境大賞」として表彰するほか、以下の各部門賞表彰も行います。
「低炭素物流推進賞」「サステナブル活動賞」「先進技術賞」「日本物流記者会賞」「特別賞」

スケジュール

- ◆ 令和5年12月 1日(木) 応募受付開始
- ◆ 令和6年3月11日(月) 応募締切
- ◆ // 3月～ 5月 審査期間
- ◆ // 5月下旬 審査結果通知
- ◆ // 6月 表彰式

過去の受賞者

- ◆ 第23回大賞
日本通運株式会社
「CO₂排出量の可視化による脱炭素社会実現に向けた物流提案支援ツール」
- ◆ 第24回大賞
株式会社フェリーさんふらわあ
「日本初のLNG燃料フェリー「さんふらわあ くない」大阪別府航路へ就航」

お問い合わせ先

一般社団法人日本物流団体連合会 事務局 島田
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3 全日通霞が関ビル5階
電話 (03) 3593 - 0139 FAX (03) 3593 - 0138

「頻発する地政学リスクの実態と危機管理の課題」について講演

令和5年度 第1回国際業務委員会を開催

10月12日(木)、全日通霞が関ビル(千代田区霞が関)において、令和5年度第1回国際業務委員会(委員長:伴野拓司氏 日本郵船(株)常務執行役員)を開催しました。

「企業が果たすべき責任、経営層にあるべき危機管理意識」を説明

委員会に先立ち、安全サポート(株)代表有坂鍊成氏により「頻発する地政学リスクの実態と危機管理の課題」と題し講演が行われました。講演会には一般聴講(オンライン)を含め70名が参加しました。

はじめに世界で発生している事象に触れ、地政学リスクの増大も含めた環境変化に対する課題とトピックスを説明されました。直近に発生した政変や内戦等の有事への対応を経験談も含めて分かりや

すく解説されました。また、今後予想される脅威と重要課題を例に挙げ、企業が果たすべき責任と経営層にあるべき危機管理の意識について説明されました。最後に「危機管理は企業価値を上げるための行動であり、それは経営者にしかできない判断である」と結論を述べられ、講演は終了しました。

委員会では国土交通省の国際物流政策について説明

講演会に続き開催された国際業務委員会には、会員企業や国土交通省から27名(内7名がオンライン)が参加しました。

委員会は、今年度から委員長を務める伴野拓司氏の議事進行により行われました。

はじめに、国土交通省物流・自動車局物流政策課国際物流室室長鈴木淳氏から「最近の国土交通省の国際物流政策の取り組みについて」説明がありました。具体的には国際物流の多元化・強靱化、日中韓物流大臣会合についての説明に続き、ASEAN・コールドチェーン等に関する報告がなされました。また、鈴木氏はこれまで以上に物流事業者と相互対話の機会を増やし、より良い国際物流行政の取り組みとしていきたいと述べられました。

次に、事務局から令和5年度上期の活動報告及び令和5年度下期の活動計画案を説明しました。下期

の活動計画案については審議の結果承認され、委員会は終了しました。



委員会の様子



安全サポート(株)代表 有坂鍊成氏による講演



伴野委員長による議事進行



国際物流政策の取り組みを説明される国土交通省鈴木淳氏

「ベトナム進出における雇用の課題と魅力」に関する講演会を開催

令和5年度 第2回海外物流戦略ワーキングチーム会合を開催

9月22日（金）、全日通霞が関ビル（千代田区霞が関）において、令和5年度第2回海外物流戦略ワーキングチーム会合を開催しました。

物流事業の海外展開に関する課題を官民連携で検討するもので、会合には会員企業や国土交通省から41名（内20名がオンライン）が参加しました。

「ベトナム進出における雇用の課題と魅力」について講演

令和5年度のワーキングチームでは、物流業界のグローバル化を進める上で重要な「ベトナムの物流事情」について調査を行っています。

会合に先立ち、講演会では、株式会社アプライズ代表の岩堀克英氏を講師として招き、「ベトナム進出

における雇用の課題と魅力」と題しご講演いただきました。講演会には一般聴講（オンライン）を含めて合計77名が参加しました。

講演は、ベトナムの人材採用状況、人材教育、雇用環境、ベトナムローカル物流



株式会社アプライズ
代表 岩堀克英氏による講演



国際物流政策の取り組みを説明される国土交通省川崎勉氏（写真右）、
松澤将吾氏

会社の現状などについて、豊富な経験談も含めて詳しく説明されました。はじめに、同国の大学における物流系学部新設の報告をされ、物流業界に対する人気と注目の高さを紹介されました。トウイロ大学物流学部長やインターンシップ学生のコメントをWEBでいただくなど、わかりやすく説明をされました。

続いて、特定技能外国人ドライバーの可能性について触れられました。最後にそれに関する質問があり、同社のベトナム人社員フォーク氏による回答をいただき講演は終了しました。

国土交通省から国際物流政策の取り組みについて説明

続いて開催されたワーキングチーム会合では、国土交通省総合政策局、国際物流室の川崎勉氏から「最近の国土交通省の国際物流政策の取り組みについて」説明がありました。具体的には、国際物流の多元化・強靱化についてのリスク要因の説明や、日中韓物流大臣会合及びASEANにおけるコールドチェーン分野の取り組み状況が報告されました。

その後、事務局からベトナム物流事情実態調査の計画についての報告と確認を行い、会合は終了しました。



会合の様子

委員会の上期活動報告および 下期方針について議論

令和5年度 第1回 経営効率化委員会を開催

9月15日(金)、本年度第1回の「経営効率化委員会」(委員長:外山俊明氏 全日本空輸(株)取締役専務執行役員)を都内の全日通霞が関ビル会議室において開催しました。

この「経営効率化委員会」は、物流業において経営上のリスクとなる問題について調査検討を行っており、労働生産性の向上、ダイバーシティの推進および危機管理など、テーマごとに適宜小委員会等を設置して調査を行うとともに、国の施策について会員の皆様へ情報提供を行うため設置しているものです。

「物流事業者における女性活躍推進に向けて」について講演

委員会に先立ち開催された講演会にはオンライン参加の方を含めて83名が参加され、講師の株式会社NX総合研究所主任研究員の大原みれい氏より「物流事業者における女性活躍推進に向けて」と題した講演が行われました。

講演では、最初に「女性活躍推進の目的と現状」、次に当連合会で行った「ダイバーシティ推進ワーキングチーム(女性活躍推進)の活動報告」、最後に「物流業における女性活躍推進にむけた重要な項目」について説明いただき、質疑応答を行った後に終了しました。

活動報告や今後の予定について説明

引き続き行われた委員会では、議事1「令和5年度上半期活動報告」として、上期は今年度から実施している「ダイバーシティ推進ワーキングチーム(高齢者活躍推

進)」の活動報告、また「外国人材の就労に関する勉強会」の開催報告、国主催の「官民物流標準化懇談会」「パレット標準化推進分科会」「モーダルシフト推進・標準化分科会」への参画等を行ってきたことについて、説明を行いました。

続いて、議事2「令和5年度下半期活動予定(案)」について、下期については「ダイバーシティ推進ワーキングチーム(高齢者活躍推進)」の今後の予定、「施設見学会の実施」、「物流における先進技術等」についての情報提供」等を行っていくことについて説明を行い、原案どおり承認されました。



(株)NX 総研 大原みれい氏



外山委員長



委員会の様子

高齢者雇用の現状と課題について 調査結果を報告

第2回 高齢者活躍推進ワーキングチームを開催

「第2回高齢者活躍推進ワーキングチーム（座長：東京女子大学 二村真理子教授）」を11月8日（水）に都内の全日通霞が関ビル会議室で開催し、オンラインを含む計20名が参加しました。

このワーキングチームでは、物流業界において大きな課題となっている労働力不足において、その対応策の一つとして期待されている豊富な知識や経験を持つ高齢者の活躍について、そのために必要な対応策等を検討することを目的としています。

高齢者雇用に関するアンケートの結果報告

今回の会合では、物流業界における高齢者雇用の現状と課題を調査するために9月に行ったアンケートの結果が、事務局より報告されました。アンケートは「企業用」と「事務職従業員用」の二種類を準備し、「企業用」（回答数41件）は会員企業の人事・総務担当者から、「事務職従業員用」（回答数508件）は各企業の事務職従業員からそれぞれ回答をいただきました（事務職従業員へのアンケートは、なるべく各世代か

ら回答を頂けるように60歳未満、60～65歳未満、65歳以上の方、の3世代に可能な限り分けて割り振っていただきました）。報告後の質疑応答では参加者からさまざまな質問、意見が飛び交いました。

高齢者活躍推進のための課題について事務局より説明

その後、アンケート結果から読み取れる高齢者活躍推進のための課題について、事務局より説明がありました。今後、課題を解決するためにアンケート回答者や効果的な取り組みを行っている企業（他業界も含む）に対してヒアリング調査を予定していますので、ヒアリングの項目案についても参加者で議論しました。

今後も引き続き数回の会合を行い、検討結果を取りまとめ、報告書として公表する予定です。



二村座長



会合の様子



会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に業務内容や、職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



第38回

日本パレットレンタル株式会社

DX推進センター 主任
五反田 舞さん

PROFILE

2015年入社。人事部で採用、育成、教育を担当。2019年、事業開発部に異動し、中四国エリアの担当として新規開拓をメインに営業に従事。2021年3月から1年間、産休・育休を取得。2022年、復職と同時に現職に異動。現在に至る。インフラ系企業を志望していた就職活動の中で、物流の高い社会貢献度を知り、同社に入社。弓道で磨いた集中力と精神力で、仕事、家事、2歳の男の子の育児にフル稼働中。埼玉県出身。

何事にも妥協しない

——入社後の経歴を教えてください。

入社後は新人研修を経て、2015年7月から人事部で採用や人材育成、教育を担当しました。4年3カ月後、新規営業をメインとする事業開発部に異動し、初めて営業に携わりました。中四国エリアの担当となったため、出張も多く、多忙な日々でしたが、直接お客様とお会いすることは大変勉強になりました。

——現在の業務について教えてください。

DX推進センターは、経営戦略に基づき立案された新規事業やサービスの開発を推進することを目的とする部署です。新規事業に向けて発足されたプロジェクトチームを事務局としてサポートしています。直属の上司である役員と先輩社員、私の3人体制ですが、上司はプロジェクトリーダーも務めていますので、同時並行で進んでいる複数のプロジェクトは、先輩と私が分担して担当しています。少数チームのため、何かイレギュラーが起こった際も業務が円滑に進むようコミュニケーションをとり、互いにフォローし合うようにしています。

——仕事をする上で、どんなときにやりがいを感じますか。

目標を達成したときです。当社では、社員の多様な働き方を推進しており、コロナ化を契機に導入し

たテレワークも定着しています。そうした環境が整っていることもあり、育休から復職するにあたっては、時短勤務ではなくフルタイムを選びました。もともと負けず嫌いな性格のため、何事にも妥協しないことをモットーとしており、仕事も育児も全力で向き合いたいと考えています。限られた時間の中でやらなくてはならないことも増えてきましたが、忙しいからこそ、その時々目標を達成するたびに充実感ややりがいを感じています。

新たなプランを提案できる人材に

——仕事に臨む際に心がけていることを教えてください。

一つは先を見通すことです。新規事業のためのプロジェクトは、何を成し遂げるべきかゴールが見えにくい面があり、大目標から逆算して今やるべきことを決めなければなりません。プロジェクトを円滑に進めるためにも、長期的な視野の必要性を実感しています。

もう一つは周囲の人たちを大切にすることです。復職してから子どもの関係で急な休暇を取ることが増え、ますます大切さを感じています。先ほどもお伝えした通り、大事な日にどうしても休まなくてはいけない場合には、先輩がフォローしてくれます。お互いに助け合える環境が整っているのは大変ありがたいことですし、自分の担当業務の枠を超えた知識を得る機会にもなっています。

——現在、抱えている課題などがありますか。

プロジェクトメンバーの皆さんは、ご自身の業務と並行してプロジェクトに参加しています。それぞれの立場からの意見の相違で、プロジェクト本来の目指す方向から逸れてしまうことがあります。そうした際に、軌道修正するのもプロジェクトが専任である私たちの仕事になるのですが、経験の浅さから、なかなか難しいときがあります。周囲から信頼されるためにも、さらに多くの経験を積んでいきたいと考えています。

——ワークライフバランスについて心がけていることを教えてください。

単身のときに比べ、仕事に費やせる時間は短くなりましたが、その分、頭の切り替えが早くなりました。同時に、時間の使い方もうまくなったと思います。当センターでは、仕事の進め方についてある程度裁量を与えられているので、自分自身で仕事が完遂できるよう予定を組み立てることができますし、夫も私の思いを理解し、協力してくれます。疲れていても、家では楽しく過ごすことを心がけています。

——今後の抱負をお聞かせください。

入社以来、管理、営業、企画と経験してきましたが、当社にはまだまだ多様な業務がありますので、さらに幅広い仕事を経験してみたいと思います。特に、当社事業において主軸となるロジスティクス業務の知識が得られれば、より大きな武器になると考



息子の2歳の誕生日に、大好きなE7系の前で

息子さんとの
オフタイムショット！



上野動物園で



京浜東北線のホームで



買い物先で「さいたまっし」に遭遇！

えています。経験の中で蓄積したさまざまな知識を組み合わせ、新たなプランを提案できる人材になりたいと思っています。

——ありがとうございました。

会社概要

日本パレットレンタル株式会社

本社住所：東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル

設立：1971年12月1日

代表者：代表取締役社長 二村 篤志

資本金：4億9,962万5,000円

社員数：368名（2023年3月末時点）

国内拠点：札幌、仙台、埼玉、東京、名古屋、大阪、福岡（ただし、パレットの貸出し返却拠点であるデポは別途全国に59拠点）（2023年3月末時点）

【事業概要】

日本パレットレンタル（JPR）は、「物流に携わる人々を重労働から解放したい」という思いから、パレットを活用した機械荷役を推進することを使命に生まれた企業。現在、レンタルパレットを約1,100万枚保有し業界のリーディングカンパニーとして物流の効率化に寄与している。最近では、物流DX推進にも取り組んでおり、紙伝票の電子化、共同輸送マッチングサービスなど、「標準化」と「共同化」をキーワードに事業を展開している。





令和5年度後期大学寄附講座

法政大学、 横浜国立大学で開講



法政大講義風景



横国大講義風景



本物流団体連合会は、令和5年度秋学期の寄附講座を10月3日（火）から法政大学経営学部、10月12日（木）から横浜国立大学経営学部でそれぞれ開講しました。

法政大学経営学部における寄附講座では李瑞雪教授が、横浜国立大学経営学部における寄附講座では倉田久教授が、それぞれコーディネーターを務め開講しました。両大学での第1回目の講義は当連合会山田哲也事務局長が講師を務め、「物流総論」をテーマに物流の構成要素や物流発展の推移、国際物流の動向等について解説しました。今後もテーマごとに各企業から業界を代表する講師が計14回の講義を行います（受講登録学生：法政大学約60名、横浜国立大学約170名）。

平成7年度より開講している本寄附講座を受講した学生は、今年度で14,600名を超え、講師自らの体験を踏まえた講義は大学・学生に好評を博しています。



山田事務局長



2023年度版「数字でみる物流」のご案内

2023年度版「数字でみる物流」概要

A 6版 ポケットサイズ

2023年12月刊

定価946円(税込み・送料別)

- I.物流に関する経済の動向 II.国内物流の動向
 III.国際物流の動向 IV.輸送機関別輸送動向
 V.貨物流通施設の動向 VI.貨物利用運送事業の動向
 VII.消費者物流の動向 VIII.物流における環境に関する動向
 IX.物流企業対策 その他「総合物流施策大綱」等参考資料

数字でみる物流

2023年度



発行 日本貨物鉄道株式会社
 一般社団法人日本物流団体連合会
 (Japan Association for Japan Logistics)

日本貨物鉄道株式会社 (JR貨物)

東海支社 稲沢機関区 運転士

あきづき はるな
秋月 春奈さん 2021年4月入社

現在の業務内容

運転士の仕事は、貨物列車の運転業務です。現在、愛知を中心に東は静岡貨物駅、西は吹田貨物ターミナル駅までの区間を指示された行路通りに運転しています。運転士として安全に運行するためにも乗務前の車両点検等も行っています。

業務に対するやりがい

運転士という仕事は、多くのお客様のお荷物を一度に運ぶため、一番重要な部分を任されていると感じています。荷物を運んでいるときは、人々の生活や物流を支えているという実感があるので、やりがいに繋がっています。

目標

現場管理者となり、貨物列車の運行を支えながら労働環境等を改善し、働きやすい環境にしていきたいことが目標です。



表紙を
飾ったのは
この方！

当連合会 最近の活動状況

2023年

9月 5日 中学生職場体験受け入れ (牛込第三中学校)
 9月 6日 物流・ロジスティクス入門講座
 9月 11日 第9回外国人材の就労に関する勉強会
 9月 12日 物流センター長のための現場力活性化の実務
 9月 15日 第1回経営効率化委員会
 9月 22日 第2回海外物流戦略ワーキングチーム会合
 9月 25日 第33回基本政策委員会
 9月 26日 物流現場業務改善の実務
 9月 26日 第1回物流環境対策委員会
 9月 27日 第3回物流いいとこみつけ隊全体会合

10月 11日 第1回人材育成広報委員会
 10月 12日 第1回国際業務委員会
 10月 16日 第2回物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会
 10月 19日 第23回物流連懇談会
 11月 6日 第4回物流いいとこみつけ隊全体会合
 11月 7日 中学生職場体験受け入れ (白鷗高等学校附属中学校)
 11月 8日 第2回高齢者活躍推進ワーキングチーム
 11月 21日 令和5年度モーダルシフト優良事業者表彰式

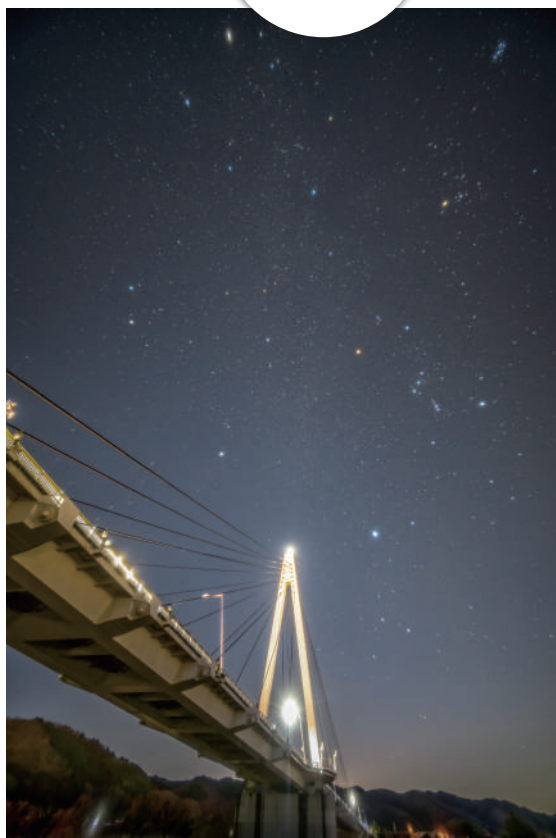
編集
後記

水泳大会に出場することになったので、練習のために足繫く市民プールに通っています。元気なおじいちゃんおばあちゃんと一緒にのんびり泳いで(たまにすごい速さの人もいるので譲ったり)、心地よい疲労感があります。やはり体を動かすと気持ちがいいですね。(S)

先日、横浜の大さん橋でウェディングフォトを撮影する予定でしたが雨で中止となり、ホテル内撮影となりました。とても残念でしたが、上司やスタッフからのサプライズもあり、最高の撮影ができました。このひとは、私にとって忘れられない宝物となりました。(K)

表紙の写真

テーマ
「明日に
つながる」



那珂川の四季折々の景色を望む

JR烏山駅、国道294号線近くを通る県道那須烏山・御前山線。烏山大橋は、那珂川に架かり、那須烏山市の旭と上境をつないでいる。中央部がΛ（ラムダ）型の柱の斜張橋で、橋長532mの白い橋の両側には歩道、柱直下には那珂川を一望できるバルコニーがあり、四季折々の美しい景色を楽しめる。